

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

1992年10月2日 第3種郵便物認可 2021年11月1日(毎月1日)発行 第360号

# いつでも元気

MIN-IREN

11

2021  
No.360

定価380円  
毎月1日発行

コミュニティーバス くるりん

けんこう教室 **歯ぐき病は万病のもと**

食と健康 **塩分控えめでもおいしく**

おかげさまで  
30年



# いつでも元気

MIN-IREN

2021 **11** No.360



## 目次

- 2 コミュニティーバスくるりん 石川
- 4 認知症見守り動画を作成 茨城
- 6 けんこう教室  
**歯ぐき病は万病のもと**
- 9 お金をかけない健康法
- 10 **うちでも元気**  
レッツ体操  
レッツ脳トレ
- 14 ハリウッドで特撮模型を製作
- 16 あの日から10年
- 18 くすりの話
- 19 まちのチカラ  
**色とりどりの  
笑顔あふれるまち** 佐賀県基山町
- 23 ひょうたん島便り
- 24 日本の風景
- 26 共同組織オンライン・ブレ集會
- 27 みちくさ
- 28 ようこそ映画館へ
- 29 終活講座 エンディングノート編
- 30 医者の言い分・患者の本音
- 32 生きいき活動あらかると
- 37 いま、語らねば
- 38 読者のひろば パズル(40ページ)
- 43 食と健康 **塩分控えめでもおいしく**
- 46 青の森 緑の海
- 48 Hot line  
心のふる里

## いつでも元気

全日本民医連と共同組織がともに作る月刊誌。時々の社会情勢を分かりやすく解説、健康情報から観光や映画の話題まで盛りだくさん。読者の皆さんが登場するコーナーもたくさんあります。1991年に創刊し全国で6万人の読者がいます。

### 全日本民医連

全日本民主医療機関連合会(1953年発足)の略称です。全国46都道府県に事務局があり、病院や診療所、介護施設など約1800施設が加盟。格差と貧困が広がるなか、「いのちの平等」を理念に活動しています。

### 共同組織

民医連のあらゆる活動のパートナー。安心して住み続けられるまちづくりを目指す自立した地域住民組織です。構成員は健康友の会会員や医療生協組合員など約370万。

### 編集部ひとこと

『いつでも元気』創刊30周年の記念パンフ、注文受付中です。動画もご覧ください。



編集：全日本民主医療機関連合会

表紙写真……………大隈愛

デザイン……………株式会社オクトデザイン事務所

印刷……………株式会社光臨メディア



野田地域にコミュニティバスを走らせる会の世話人たち。右端が木村さん

昨年10月、石川県金沢市で  
 コミュニティバス「くるりん」が誕生して1年。  
 健生クリニックの送迎車を利用して、  
 住民の移動する権利を守っています。  
 石川県健康友の会連合会役員で、  
 くるりん運営委員会事務局の木村吉伸さんの報告です。



県営住宅からスーパーや銭湯へ向かう

# 地域住民の 移動手段として

コミュニティバスくるりん 石川

「コミュニティバスくるりん」が、昨年10月1日から金沢市南部を走り始めました。くるりんの名称は、地域を「くるりとまわる」という意味で、みなさんの投票で決まりました。

くるりんは予約なしで、どなたでも無料で利用できます。健生クリニックの送迎車（10人乗り）の空き時間を利用して、週2回（水・木）午前11時から午後2時まで、1周30分を6便運行しています。運行ルートは県営住宅からスーパーやドラッグストア、銭湯などをまわり、健生クリニックへ戻ります。

## 住民アンケートを実施

近所にあったスーパーや銭湯がなくなり、高齢者が日常生活に支障をきたす場面が増えています。本来は「誰もが、いつでも・どこでも・自由に」移動する権利が保障されなければならず、自治体や公共交通機関にはそれを実現する責務があります。

地域住民の移動する権利を守る

うと、金沢市南部の野田地域に「コミュニティバスを走らせる会」が結成されたのは2019年10月のこと。署名を集めて市議会に請願しましたが否決され、市長への要請も担当課から「実現は困

難」との回答でした。そこで町会の閲覧板などを通して住民アンケートを実施し、約600世帯が回答。車を運転しない人が不便を感じる外出先は「スーパー」が最も多く、「公共施設」

「病院」と続きました。全体の半数以上が「バスが導入されたら利用する」と答え、マイカーがある人も「時々利用したい」「免許返納後に利用する」と回答しました。

## 利用者から喜びの声

市に対して要求を続けながら、「今すぐバスを実現してほしい」との要望に応えて生まれたのがくるりんです。

健生クリニックや健康友の会、地域で送迎や配食などのサービスを担当するNPO法人たすけ愛が共同で運営することで実現しました。運転ボランティアは5人が交替で行い、感染対策にも気をつけています。運行ルートであれば自宅前で乗り降りできるようなするなど、利用をさらに拡大するための工夫も必要です。社会福祉協議会や地域包括支援センターから問い合わせがあり、地域でもくるりんは知られてきています。

利用者からは「お風呂に行けて嬉しい」「JA（農協）直売所で野菜を買えるのが楽しみ」と喜びの声が。ほかにも「これまではタクシーだったので助かる」「買い物へは歩いて行けど、帰りに荷物が重くてもくるりんがあるので安心」など歓迎されています。お友達と誘い合って乗る方もいて、1日35人前後が利用しています。一人ひとりの願いに応えるくるりんの運行を積み重ねて、つながりを強めながら、市に対して公共バスの実現を迫っていきたく思います。





いとう・さとる

作家、音楽評論家。テレビ人形劇の最高峰「ひょっこりひょうたん島」(NHK)に魅せられ番組を記録、1990年代のリメイク版に貢献した。著書に「大人でも読める思春期ガイダンス」(明石書店)など

伊藤 悟の  
ひょうたん島  
便り

vol.73



# ガセネタにだまされるな

東京オリンピック終了後、IOCのバツハ会長が銀座にくり出した時、「銀ブラ」と見出しに付けるメディアがあった。するとネット上では銀ブラの語源について「銀座のカフェーパウリスタでブラジル珈琲を飲むこと」という人ちくを傾ける人が次々に現れた。銀ブラという言葉が話題になった時の恒例行事だ。

しかし、これはパウリスタのお店が宣伝のために流した根拠のないガセネタ。銀ブラ



とは大正期から「銀座の街をぶらつく」という意味だと辞書や資料に書かれている。

ガセネタを拡散したのはテレビで、たくさんのバラエティ番組やクイズ番組で面白おかしく取り上げられ、訂正を求めても逆に嘘扱いされたりする。小ネタとしてドヤ顔で語る人も多く、いったん定着したガセネタをただす困難さを痛感する(以上の話は雑学辞典等を多く出している杉村喜光氏による)。

## 卑劣な野党攻撃

さらに悪質なガセネタもある。9月10日、TBS系のテレビ番組「ひるおび」で、コメンテーターの八代英輝弁護士が「共産党は暴力的な革命を党の要綱(ママ)として廃止していない」と事実無根の発言をした。共産党の綱領にはそんなことは全く書かれ

ていない。

共産党だけでなく多くの人が抗議し、13日に八代氏は謝罪するが、綱領に書かれているのではなく「閣議決定された政府見解に基づいたものでした」と、逆に認識の誤りを強化する始末。

確かに2016年、当時の安倍政権は「共産党の暴力革命の方針に変更はない」と閣議決定しているが根拠はない。閣議決定。というと権威がありそうだが、科学的・歴史的に検証された見解ではなく、あくまで内閣の私的な見解に過ぎない。

過去の閣議決定には「セクシー」には魅力的という意味がある。「セクハラ罪」という罪は存在しない。「安倍晋三首相の昭恵夫人は公人ではなく私人」など珍妙なものもたくさんある。こじつけで、閣僚の失言や問題行動を隠そ

うとしてきたのだ。

一連の八代氏の発言はさらに物議をかもし、番組のスポンサー(キュービー等)がCMを控える事態になって、やっと17日に「共産党の党綱領には暴力革命の記載は存在しません」と、正式に頭を下げて謝罪した。

しかし銀ブラ同様、この発言で共産党に対する誤った見方が広がった可能性もある。八代氏だけでなく、看過したテレビ局の責任は重い。

総選挙が近づくとつれ、政権交代を掲げる野党に対して、こうしたガセネタを使つたネガティブキャンペーンが展開される可能性がある。コロナ禍の失政を検証せず、9月中は自民党総裁選一色の報道も野党軽視でおかしかった。私たちは言葉の真偽をしっかりと見極める眼を持ち、選択を誤らないようにしたい。